



外科系診療部長  
外科部長  
龍城 宏典

<経歴>  
2007年 群馬大学卒業，医学博士  
<資格>  
日本外科学会 専門医  
日本消化器外科学会 消化器外科専門医  
日本消化器病学会 消化器病専門医  
日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医  
日本消化管学会 胃腸科専門医  
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医  
日本消化器外科学会 消化器がん治療認定医  
日本ヘルニア学会 鼠径ヘルニア習得医



外科副部長  
ダヴィンチ腹腔鏡センター副センター長  
加藤 隆二

<経歴>  
2008年 群馬大学卒業，医学博士  
<資格>  
日本外科学会 外科専門医・指導医  
日本消化器外科学会 消化器外科専門医・指導医  
日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医  
日本内視鏡外科学会 技術認定医(大腸)  
日本内視鏡外科学会 ロボット支援手術プロクター(大腸)  
日本内視鏡外科学会 評議員  
日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医・指導医  
日本消化器内視鏡学会 関東支部評議員  
日本消化器病学会 消化器病専門医・指導医  
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医、他

## 群馬県初、ロボット支援下ヘルニア手術(ロボヘル)導入

2026年4月、当院は鼠径ヘルニアに対するロボット支援下手術(ロボヘル)の初症例を施行いたしました。これは群馬県はもとより、北関東で初めてのロボヘル導入事例となります。

当院はこれまでも精緻な放射線治療ができる「トモセラピー」、ロボット手術支援機器「ダヴィンチXi」など、多数の技術を県内で先んじて導入し、群馬大学と協力しながら世界標準の最新治療を県内の皆様にいち早くお届けして参りました。ロボット手術のエキスパートである加藤医師を迎え、昨年には直腸癌にもロボット手術を導入しており、治療の難しい直腸癌において当院は手術・放射線治療・化学療法・さらには温熱療法を併用した集学的・専門的治療が受けられる県内有数の施設となっております。

今回のロボヘル導入も「地域の方々に、一日も早く最高の治療法を提供したい」という強い信念のもとで、本年6月の診療報酬改定(保険収載)に先駆けて行ったものです。ロボヘルは、これまでの腹腔鏡手術(ラパヘル)と比べてより精密な操作が可能になるため、より安全で確実な治療が期待できます。

当科では経験豊富な鼠径ヘルニア習得医、内視鏡外科技術認定医、ロボット支援手術プロクター(指導医)が直接診療にあたります。初発の鼠径ヘルニアに限らず、再発例、腹壁癒痕ヘルニアなどの困難症例においても、国内トップクラスの専門施設と連携し、再発率の低さと審美性にこだわった最適な治療を提供いたします。



## 地域の先生方へ

当院は、高度医療機関(大学病院・がんセンター・都内専門機関)とも強固な連携を築いており、困難症例の受け入れ窓口としてもご評価をいただいております。「手術を検討しているが、どこに相談すればよいか」「最新の直腸癌、ヘルニアの治療について詳しく知りたい」といった患者さまがいらっしゃいましたら、ぜひ当科へご相談ください。



## お問い合わせ

日高病院 病診連携室

群馬県高崎市巾尾町886

TEL 027-362-6201

FAX 027-362-0217

✉ renkei0217@hidaka-kai.com

## ロボット支援下鼠径ヘルニア修復術(ロボヘル)

ロボヘルについて、ダヴィンチ腹腔鏡センター副センター長の加藤隆二先生にお話を聞いてみました。



### Q1 ロボヘル導入への思いを聞かせてください？

**A** 鼠径ヘルニアの手術が腹腔鏡でできると知ったとき、足の付け根に数センチの傷がついていたものがより小さな傷でより確実に治せる可能性があるならそのやり方が世の中を席卷するに違いないと思ったものです。10年程前に前橋赤十字病院でいち早くその術式が導入される際にも、私は縁あって直接関わる機会をいただきました。その後、予想通り腹腔鏡(ラパロ)下鼠径ヘルニア手術は「ラパヘル」の愛称でまたたく間に普及しました。群馬大学附属病院に在籍していた間も執刀・指導する機会が多く、ラパヘルは私が愛着を持って取り組んできた術式の一つです。今回「ロボヘル」の県内初導入にも関わることができたことは、私にとって感慨深いものがあります。今後はこの術式の普及にも尽力して参りたいと思っています。

### Q2 ロボット手術にはどんな良いことがありますか？

**A** ロボット手術はロボットが手術を勝手にやってくれるものではありません。ロボットは、立体視のできる高精細なカメラを「目」としてお腹の中を観察し、手振れなく正確に動く機械仕掛けの小さな「手」を挿入して外から操作することで術者の精緻な手術を支援してくれる道具です。私は前任の群馬県立がんセンターでロボットを用いた大腸癌・直腸癌手術を数多く経験して参りましたが、ロボット支援下の手術操作のしやすさは従来の腹腔鏡手術とは比較ならず、安全で質の高い手術を提供できます。私たちの分野ではとくに直腸癌手術において有用と言われており、当院でも昨年導入しております。



### Q3 ヘルニアがロボットでできるようになると何がいいのでしょうか？

**A** 「ロボヘル」は「ラパヘル」の手技をロボットを使って行うものです。ラパヘルは良い術式ですが、棒状の器具だけで行うにはどうしても操作が難しい面がありました。この問題をロボットは見事に解決してくれます。実際にロボットでヘルニアの手術をやりはじめて、ロボヘルでは「さらにその上のクオリティ」を「より安定して」提供出来ると確信しています。なお、従来の術式にもそれぞれメリットがあり、全ての患者さんでロボット手術が勧められるわけではありませんので、詳しくは担当医にご相談ください。



### Q4 当院で手術を考えている方に先生からメッセージをお願いします。

**A** 多くの人にとって人生で手術を受ける機会は数える程しかないと思います。私はその貴重な機会に際し、**最も美しく、合併症の少ない、患者さんの満足度の高い手術を提供したい**と考えておりますので、よろしくお願いたします。